

2017 年度の

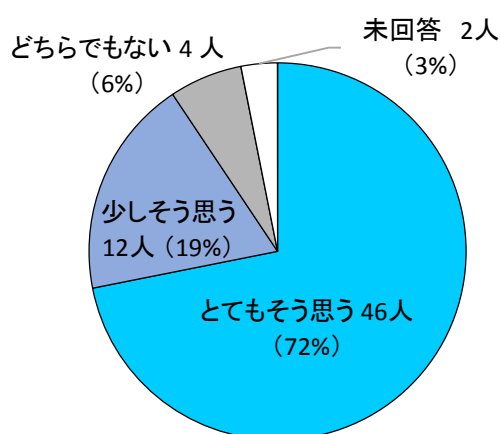
第 2 章 地域支援プロジェクトの取り組み

1. 専門職への講演・ワークショップ

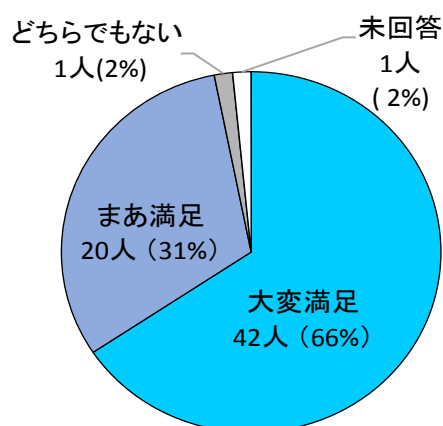
(1) 日置市における介護支援専門員を対象とした講演会

6 月 1 日，鹿児島県介護支援専門員協議会主催の対人援助職のメンタルヘルスに関する講演会が日置市中央公民館において行われ，教員の金坂が「人間関係と心の健康について—対人援助職のメンタルヘルス—」というテーマで講演を行いました。対象者は，日置市の居宅支援事業所や介護施設等に勤務する介護支援専門員でした。

内容は，臨床心理学の知見を活かした人間関係，メンタルヘルス，特に自殺予防に焦点を当てた講演を行いました。



講演会の内容は役立つと思いましたか？



講演会の満足度

【参加者の感想】

- ・人を支えるには，まず自分自身のところが健康であることが必要だということを改めて感じた。考えることも大事だが，プラス思考でいくことが重要であると感じた。
- ・病気を患った方は多かれ少なかれ，うつ的な方がいらっしゃいます。声かけをどのようにしていくか，心の状態に寄り添いながら，今後接していきたいと思います。
- ・自分の心の癖については分かっているのですが，忙しいと思ひ込みに走りがちです。心のゆとりがもてるようになればいいと思いました。
- ・担当する利用者に対し，おのずと先入観を持って，決めつけてかかっていた事が多々あったので，決めつけは良くないと改めて思いました。

(2) 伊佐市における保育士・幼稚園教諭を対象とした研修会

2月24日、伊佐市子ども課主催の発達障害と発達検査に関する研修会が大口元気こころ館において行われ、教員の高橋と特任専門員の片平が講演と、子どもと保護者を支援へつなぐことを想定したワークを行いました。対象者は、伊佐市内の保育士、幼稚園教諭、発達支援事業所職員等でした。

伊佐市では、就学前に専門機関で発達検査を受ける児が増えてきた一方で、その検査がどのようなもので、結果が何を意味しているのか、といったことについて保育士や幼稚園教諭が学習できる機会は限られており、保育士や幼稚園教諭などスタッフによって検査結果の理解度や活用度に差がある現状がありました。このことから、実際の保育や教育において検査結果の活用につなげるべく、今回の研修会が行われました。

当日は、講演を行った後、“気になる”子どもとその保護者を発達相談へとつなぐことを想定したワークを実施しました。ワークでは、参加者が3人1組になり、それぞれが保護者役、支援者（保育士等）役、保護者役と支援者役のやりとりを見ておく観客役を取り、支援者役から保護者役に発達相談を受けることを勧める場面をロールプレイしました。ロールプレイでは、全員が全ての役割を体験し、その感想を役割を体験するごとに共有しました。ロールプレイを通して、それぞれの立場の心情を体験的に理解する機会となったようでした。また、支援へとつなぐためにはどのような働きかけが良いのか、改めて考えるきっかけとなったようです。

研修会の内容

13:35 ～ 14:20

高橋「心身の発達と発達障がい」

14:30 ～ 15:15

片平「発達検査の概要と実施」

15:25 ～ 16:45

高橋、片平 ワーク（ロールプレイ）



ロールプレイの様子

【参加者の感想】

- ・子どもさんと保護者との関わりや伝え方を実践で感じることができ、よかった。
- ・ワークで実際色々な立場にたって体験することで、その立場の心情を少しですが理解できました。保護者の立場になることの経験ができてよかったです。
- ・気になる子が増えているなかで、子ども達の困りごとに気づき、どのように支援していったらいいのか理解できた。

第2章

2. 各地域における支援活動

(1) 霧島市における支援活動

霧島市こども発達サポートセンターあゆみでは、地域に対する発達障害の普及と啓発のために毎年発達に関する学習会を実施しています。地域支援プロジェクトでは、2015年度、2016年度に引き続き、今年度も教員の高橋、瀬戸山の2人がそれぞれ学習会の講師を担当しました。

今年度は、子どもをもつ保護者だけでなく、放課後児童指導員など支援者の参加も多く、家庭での子育てや現場での支援において子どもと接する際の参考となったようでした。もっと話を聞きたかったとの感想も多く聞かれ、発達障害の特性を持つ子どもへの対応方法に関して地域からのニーズがあることが窺われたとともに、地域支援の重要性が改めて感じられました。



研修会の様子

講演会のテーマ

- ・高橋「幼児期から児童期の発達が気になりな子どもへの関わりの工夫」
- ・瀬戸山「子どもたちの学校・家庭での困りごとへの対応 ～事例を通して～」

(2) 伊佐市における支援活動

伊佐市では、これまで大学院生が就学相談会の現場で検査者となり、対象児童への心理検査を行ってきました。本年度も6名が実際に心理検査を行い、2名が検査補助兼陪席を行いました。そして、心理検査の結果をもとに、特任専門員の片平が4組の親子を対象に就学相談を行いました。

就学相談会にあたっては、心理検査の実施前に3回に分けた事前学習を行いました。事前学習では、2014年度に地域支援プロジェクトにおいて作成した田中ビネー知能検査Vのビデオクリップを視聴した後、ロールプレイを行い、実際の場面をよりイメージできるよう工夫しました。

心理検査の実施や陪席、検査所見の作成、就学相談会でのフィードバックの陪席は、大学院生にとって現場での貴重な実践や学びの機会となったようでした。



事前準備の様子

3. 国際交流

(1) 高齢者・認知症ケアにおける心理的支援と国際的研究に関する講演会

地域支援プロジェクトでは、10月27日に、パリ第5大学心理学部神経心理学科エイジングチームで講師として活躍されている Pauline Narme 先生をお招きして高齢者や認知症患者ケアにおける心理的支援と国際的研究に関する学内講演会を実施しました。

講演会では、Narme 先生がされている高齢者や認知症患者の記憶やバリデーション等の介入技法に関する研究についてご講演いただきました。

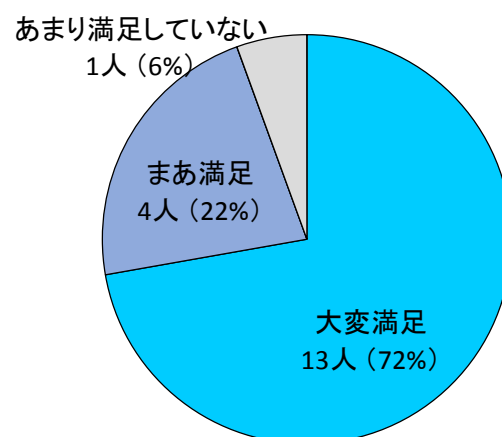
大学院生にとっては、心理的アプローチの意義や効果の根拠となる基礎的な研究や介入技法の効果を検証する研究の国際的な動向について触れる貴重な機会となりました。



講演会の様子

【参加者の感想】

- ・日本だけではなく、世界でどう研究が行われているのかやどのような考え方があるのかなど知ることができ、知見が広がりました。
- ・やり方としての療法を学ぶだけでは、援助の相手を意識することを忘れがちであったが、今回支援をした結果や、その療法のエビデンスを学ぶことで、援助の対象者を意識して学んでいきたいと感じた。
- ・研究内容も非常に興味を引かれるものでした。また、データを収集するにあたり、高齢者においての様々な群を設定するのみならず、年齢差もわかるようなデータ量に驚きました。



講演会の満足度

第2章

(2) 海外における慢性疾患への心理療法に関する講演会

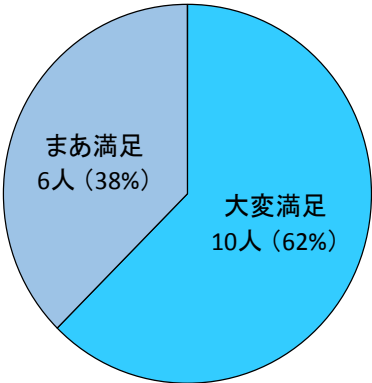
地域支援プロジェクトでは、11月9日に、オーストラリア・タスマニア大学講師でタスマニアの公立病院に勤務する John Mercer 先生をお招きし、慢性疾患に対する心理療法に関する学内講演会を実施しました。

講演会では、海外における慢性疾患に対する心理療法について、東洋思想を含む介入技法（森田療法）の視点から実例を交えてご講演いただきました。

大学院生にとっては、東洋思想が含まれる心理療法アプローチの、文化を超越した有用性について考えを深める機会となったとともに、東洋にある日本の心理臨床においては自然に重視されていることの重要性を改めて認識するきっかけとなったようです。



講演会の様子



講演会の満足度

【参加者の感想】

- ・ 東洋思想について、自分たちの考え方に改めて気づくことができ、その考え方が心理療法にどのように関連しているかを学ぶことができた。
- ・ 東洋と西洋でだいぶ考え方が異なっており、私たちが普通に考える事でも、西洋では難しかったり、東洋の思想の方が有効な状態像もあるんだなと思った。
- ・ 心理介入において “ 多面的に見る ” ことの重要性についてよく言われるなかで、今回のように慢性状態をまず構造や考えのサイクルを理解することで、支援者の頭も整理しやすく、患者理解のうえでとても重要だと感じました。
- ・ 西洋の心の捉え方、身体の捉え方になじみがないので、知ることができてよかった。捉え方が違えば介入の仕方も変わってくることを学べた。西洋で生まれた療法は日本でも多く活用されているように感じるが、東洋の思想が西洋でどのくらい活かせるのか聞けておもしろかった。

(3) フィリピンにおける視察

2018年3月に臨床心理学研究科の専任教員の高橋と中村が、フィリピンの私設カウンセリングセンターと児童養護施設を訪問し国際交流を行いました。フィリピンは7000を超える島を有しています。遠く離れた離島も多く存在し、各島によって独自の地域風土が色濃く残っています。フィリピンの都市部と島嶼部の福祉教育施設の訪問と Public Mental Health に関するカンファレンスを行い、臨床心理学的地域支援の可能性について議論しました。

① Interspect Training Service 訪問

フィリピンの首都マニラの郊外に位置するマリキナにある私設のカウンセリングセンター Interspect Training Services を訪問しました。Interspect Training Service ではカウンセリング活動に加え、地域の母親に向けた Positive Parenting Training、カウンセラーや地域の保健師など対人援助職の方々へのトレーニングサービスなどフィリピンの心理支援の中核的な役割を担っています。活動拠点は首都マニラですがニーズに応じて島嶼部の支援も行っています。Prof. Cherrie L. Ragunton や現地のカウンセラーと Public Mental Health への貢献に向けた心理支援のあり方について議論を行いました。



Interspect Training Service
スタッフとの協議風景



カウンセリングルーム

第2章

② National Capital Region Reception and Study Center For Children 訪問

Reception and Study Center For Children は虐待を受けた児童や遺棄された児童、その他の理由で適切な養育が得られない児童を保護する宿泊型の施設です。中央の大きな Play Ground を囲むように女子棟、男子棟、幼児棟、乳児棟が配置されています。職員はケアワーカーやソーシャルワーカー、心理士、栄養士、医者など多くの専門職で構成されています。Head Social Worker と施設心理士、ケアワーカーを交えたカンファレンスを行い、社会的養護における国際的状況について議論しました。



Reception and Study Center For Children 施設の様子



カンファレンス後
Head Social Worker らと一緒に



マニラ都市部の風景

③その他

Mactan 島の教育施設を訪問しました。フィリピンの就学率は、小学校で 90%を超え、東南アジアの中では比較的高いです。ただ、少数民族で地方言語を話すためフィリピン語による授業についていけず就学できない児童や、スラムなど公的な教育サービスが行き届かない地区の児童などの存在も懸念されています。フィリピンでは最も人気があるスポーツがバスケットボールで、多くの小学校にバスケットコートが附設されていました。



4. 2017 年度の地域支援活動実績

地域	活動内容	対象者	参加人数 (大学院生)	担当	実施日
日置市	対人援助職のメンタルヘルスに関する講演会	居宅支援事業所、介護施設等に勤務する介護支援専門員	64 名	金坂	6 月 1 日
学内	就学相談活動にむけての研修会	大学院生	(41 名)	高橋 中村 片平	9 月 11 日 9 月 15 日 9 月 26 日
伊佐市	就学相談活動	年長児	9 名 (8 名)	片平	10 月 11 日 10 月 18 日
鹿児島市	高齢者・認知症ケアに関する講演会	大学院生	(18 名)	稲谷	10 月 27 日
霧島市	発達に関する学習会	一般・保護者・支援者	110 名	高橋 片平	10 月 31 日
伊佐市	就学相談活動	年長児	9 名 (2 名)	片平	11 月 8 日
鹿児島市	慢性疾患への心理療法に関する講演会	大学院生	(16 名)	松浦	11 月 9 日
霧島市	発達に関する学習会	一般・保護者・支援者	80 名	瀬戸山	11 月 21 日
伊佐市	発達障害と発達検査に関する研修会	保育士・幼稚園教諭	29 名	高橋 片平	2 月 24 日
計	12 回	301 名 (大学院生 85 名)			